

-----  
[ 成果情報名 ] デンファレのバルブ切除によるリードの発生促進

[ 要約 ] デンファレ「エマーホワイト」および「リンリン」では、9～10月に花茎を含むバルブの上位3節を切除すると、次世代リードの発生が著しく促進される。切除処理時に高温処理を行うと、促進効果がさらに大きくなる。

[ キーワード ] デンファレ、鉢物、バルブ切除、リード

[ 担当部署 ] 花き部・花き栽培チーム

[ 連絡先 ] 092-922-4958

[ 対象作物 ] 花き・花木      [ 専門項目 ] 栽培      [ 成果分類 ] 新技術

-----

[ 背景・ねらい ]

デンファレの需要期は5月から8月までの4カ月間であるが、開花調節技術が確立していないことから、需要期の出荷割合は4～6割程度と低く、このことが、デンファレ経営が安定しない大きな要因となっている。

本種は、新たなリードが発生すると開花まで5～6カ月を要することから、リードの発生時期の調節によって開花調節が可能である。そこで、第3世代バルブの切除や加温方法について検討し、（第4世代）リード発生方法を確立する。

[ 成果の内容・特徴 ]

1．デンファレの花茎を含むバルブの上位3節を切除すると、「エマーホワイト」および「リンリン」のいずれの品種も、リードの発生が著しく促進される（表1）。

2．「リンリン」では、第3世代バルブを切除した場合や、9～11月に1カ月間高温処理（昼温32 / 夜温25 ）すると、リードの発生が促進される（表2）。

3．「エマーホワイト」では、第3世代バルブを切除するとリードの発生が促進されるが、高温処理の効果は「リンリン」に比べて小さい（表3）。

[ 成果の活用面・留意点 ]

1．デンファレのリード発生促進技術として活用できる。

2．バルブの切除時期と開花および開花時の品質については、栽培温度や施肥量、株の充実程度等によって異なるので検討を要する。

具体的データ]

表1 花茎切除方法がリードの発生および開花に及ぼす影響

品 種	花茎切除 方法	リード発生株率	
		10/31 %	3/19 %
エマーホワイト	花茎のみ	70	100
	バルブ	100	100
リンリン	花茎のみ	10	100
	バルブ	90	100

注)花茎切除時期:9月17日

表2 高温処理およびバルブ切除と第4世代リードの発生(品種:リンリン)

高温処理 開始時期	バルブ切除 処理時期	リード発生株率(%)					
		9/30	10/15	10/30	11/15	12/1	12/15
無処理	無処理	0	0	0	77	80	83
無処理	9月10日	0	0	0	100	100	100
	10月10日	0	0	0	100	100	100
	11月11日	0	0	0	0	100	100
9月10日	9月10日	90	100	100	100	100	100
	無処理	47	83	100	100	100	100
10月10日	10月10日	0	56	100	100	100	100
	無処理	0	50	84	94	97	97
11月11日	11月11日	0	0	0	100	100	100
	無処理	0	0	0	92	94	97

注)1.第3世代偽球茎下位節から発生した新芽が約1cmとなった株の割合  
2.高温処理 昼温32/夜温25 (切除処理後1ヵ月間)

表3 高温処理およびバルブ切除と第4世代リードの発生(品種:エマーホワイト)

高温処理 開始時期	バルブ切除 処理時期	リード発生株率(%)					
		9/30	10/15	10/30	11/15	12/1	12/15
無処理	無処理	0	0	0	27	54	60
無処理	9月10日	0	0	0	97	100	100
	10月10日	0	0	0	100	100	100
	11月11日	0	0	0	0	100	100
9月10日	9月10日	29	100	100	100	100	100
	無処理	7	10	47	47	90	90
10月10日	10月10日	0	4	73	94	100	100
	無処理	0	6	17	44	57	57
11月11日	11月11日	0	0	0	15	94	97
	無処理	0	0	0	7	50	57

注)1.第3世代偽球茎下位節から発生した新芽が約1cmとなった株の割合  
2.高温処理 昼温32/夜温25 (切除処理後1ヵ月間)

[その他]

研究課題名:デンファレの春、夏出し栽培法の確立

予算区分:経常

研究期間:平成15年度(平成14~15年)

研究担当者:坂井康弘、國武利浩、松野孝敏、黒柳直彦、巢山拓郎